

食品ロスを減らすために！

残さず食べよう

349（サフォーク）運動



～もったいないの気持ちを行動に！～

皆さんは「食品ロス」という言葉を聞いたことがありますか？

まだ食べられるのに廃棄されてしまう食品のことを「食品ロス」といいます。日本では、年間2,402万トン[※]の食品廃棄物等が出されていますが、このうち食品ロスに相当するのは523万トン[※]に及びます。これは、飢餓に苦しむ国に対して世界中から送られた食糧援助量（令和3年：約440万トン）のおよそ1.2倍の量となり、国民一人当たりで換算するとお茶碗約1杯分に近い量（約114g）、士別市全体では、1年間に約700トンに上ります。

※農林水産省及び環境省「令和3年度推計」

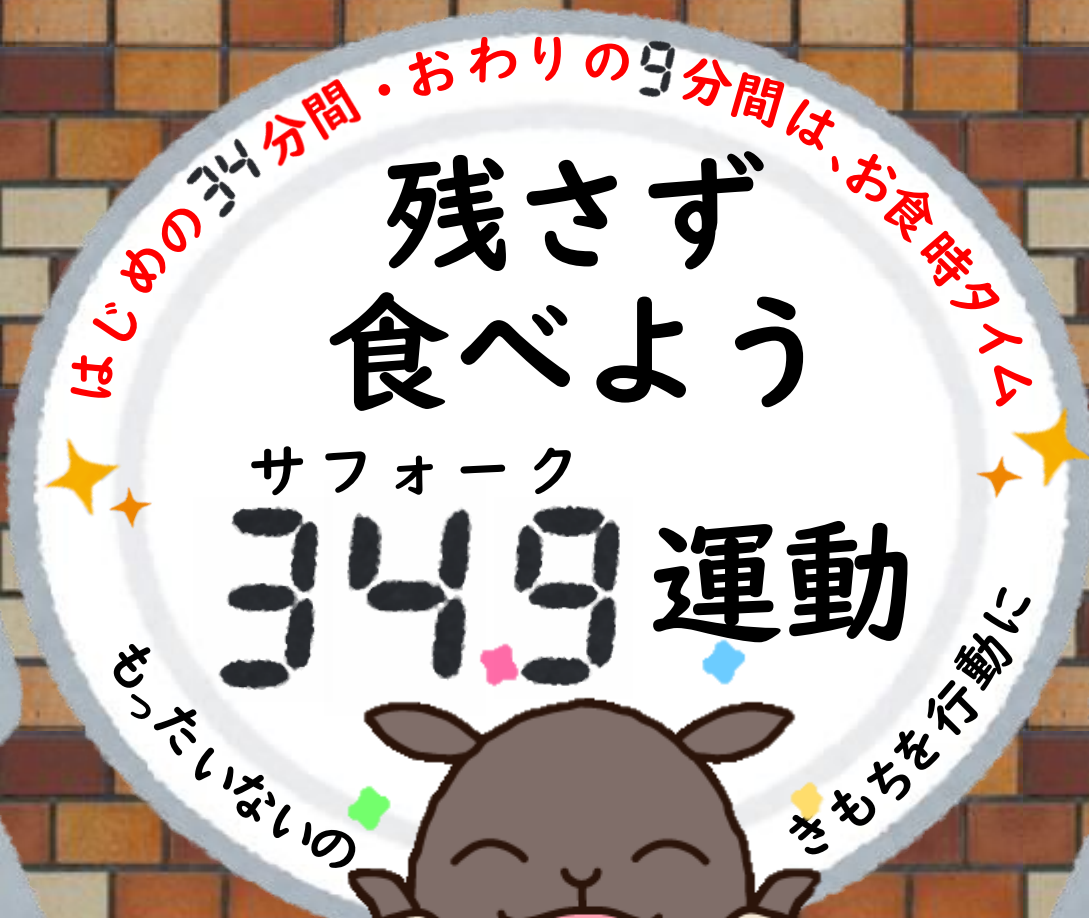
食品ロスは、家庭をはじめさまざまな場所で発生していますが、そのうち飲食店で発生する食品ロスでは、食べ残しによるものが相当程度を占めているといわれており、特に宴会の食べ残しは提供された食事の14.2%（7皿のうち1皿が廃棄されていることに相当）といわれています。環境省では乾杯後30分とお開き前の10分は自席で料理を食べる取り組みである「3010（さんまるいちまる）運動」を推進しています。



士別市では、サフォークによるまちづくりをすすめていることから、市民の皆様になじみのある「サフォーク」にちなんで、「残さず食べよう349（サフォーク）運動～もったいないの気持ちを行動に！～」として「開会からの34分間と、閉会の9分前には自分の席に座って料理を楽しみましょう」という食品ロスを減らす運動に取り組んでいます。

市民の皆様におかれましては本運動の趣旨をご理解いただき、積極的に取り組んでいただきますよう、ご協力をお願いいたします。

この運動は士別商工会議所・朝日商工会・士別地方食品衛生協会・士別料飲店組合・全調理師会士別支部・士別市が連携して推進しています



乾杯後の 34 分間とお開き前の 9 分間は
席を立たずにうんメェ〜料理をいただきますよう。
適量注文で食べきれる量を注文しましょう。

食品ロスの削減にご協力ください



この運動は士別商工会議所・朝日商工会・士別地方食品衛生協会・士別料飲店組合・全調理師会士別支部・士別市が連携して推進しています